



左は、百年の森と名付けられた高台から南西を撮った写真です。サクラの淡い桃色とコナラの新葉が織りなす春色が目にとまりました。これから鮮やかな緑色の葉に衣替えが進み新緑の季節を迎えます。この時節を合わせるように虫が増え、小鳥が子育てを始めます。



イスノキ

植栽された常緑樹で、赤い蕾がたくさんありました。つぼみが開くと雄しべや雌しべが見えますが、花卉はありません。



ヤマブキ

日本の伝統色で、この花の色が由来です。オレンジ色より彩度明度共に低めの色です。



タケノコ顔を出す

孟宗竹の林から 3 m くらい離れて顔を出していました。タケノコの節の数は 60 個ほどありますが、成長しても数は増えません。



ツチイナゴ

後方から飛んできてこちらが見える位置に着地しました。ツチイナゴは成虫で越冬します。6 月頃卵を産み一月くらい後に孵化します。



クリオオアブラムシ卵
冬に見つけた卵です。ルーペで見たらほとんどしなびていました。ヨコヅナサシガメに汁を吸われてしまったようです。



イロハモミジ

雄花と両性花が咲きますが、これは両性花で、雌しべの先が二つに割れています。その下に赤い雄しべが見えます。



タラノキの新芽

先端の大きく目立つ頂芽がとられて樹液が出ていました。その下から2番手の側芽が伸びようとしています。おいしいから棘で身を守っているのですが、人には通じません。



キリギリス幼虫

毎年タンポポの上でキリギリスのこどもを見かけます。この時期の幼虫は、肉食ではなく花粉や花びらなどを食べているようです。

スマレ



タチツボスマレ



ミツバアケビ

左上が雌花、右下が雄花です。花の匂いの研究では、ミツバアケビは風媒花的で、雑種のゴヨウアケビは虫媒花的だそうです。池を半周回ったあたりにゴヨウがあるので比べてみようと思います。



マムシ

側溝に溜まった水面をくねくねと動きながら進んでい

ました。顎の張った大きめの頭に、背中の丸い鎖のような模様が特徴的です。地上では、危険を感じると尻尾の先を持ち上げて小刻みに震わせて音を立てます。



トビモンオオエダシヤク死骸

前日の10日、アスファルト上で見つけた春の蛾で、卵を産んで命が尽きたようです。幼虫は左のように頭に角のようなものがあり、大きくなるので目につきます。



植物 スマレ、アリアケスマレ、ヒメスマレ、タチツボスマレ、タンポポ二種、ハナイバナ、ノミノツヅリ、オランダミミナグサ、ハコベ、ハルジオン蕾垂れる、ミツバアケビ、ソメイヨシノ満開を過ぎる、ヤマザクラ、オオシマザクラ、ウメ(実が膨らむ)、コナラ(にこ毛をまとった新葉が広がり雄花が顔を出す)、ヤマモモ(雄花が終わり雌花の雌しべが見える)、イロハモミジ雌しべ現れる、ヘビイチゴ花蕾、シナレンギョウ、ヤマブキ、ミヤマガマズミ花蕾、イソノキ花蕾、冬芽膨らむ(オニグルミ、イソノキ、タラノキ等)、**昆虫** ツマグロキチョウ、キタキチョウ、ツマキチョウ(春のみに現れる)、ツチイナゴ飛ぶ、キリギリス幼虫、キンバエ、イチモンジカメノコハムシ、クリオオアブラムシ卵しぼむ、**蜘蛛** ジョロウグモ卵のう、チュウガタコガネグモ、**鳥** ハシボソガラス、ヒヨドリ、シジュウカラ、カワラヒワ、オオバン番(陸上で草を食べる)、カワウ巢材運ぶ、

その他 マムシ、モグラの坑道、イセノナミマイマイ

ツマキチョウ

